歴史点描　４　　高磯家資料・備忘録

歴史講座で使用する古文書資料「備忘録」は、明治３７年（1904）３月興浜村の自治を担った惣代石田氏の手になる記録で、メモ帳のような小振りな体裁ですが、日々の出来事を忘れないように書き留めたものですから嘘偽りが無く、感情抜きにありのままに綴られた貴重な資料です。その後大正３年１２月再調の表紙が続きますので、時代をまたいで富国強兵の政策のもとに村人を戦地に赴かせる心苦しさが随所に記されています。

石田氏は明治４２年３月１日総代辞任書をなぜか太田君へ手渡します。太田君とは、のちに興浜惣代として「備忘録」を引き継いだ人物で、名を覚治郎と言い江戸時代柴屋を名乗り「柴善」の通り名で薪や炭を扱う燃料を手掛ける商家に生を享けたと聞き及んでいます。覚治郎氏は昭和２０年興浜村海岸部に広大な農地をもたらした新田干拓発起人の一人として干拓碑に名をとどめます。そのような彼を力強くバックアップする仲間は貝釦製造の太田本家の太田勝治氏、マッチで財を成した山本真蔵氏などいずれも後世に名を残す実力者は縁戚関係にあり、商家出身ならではの革新的な思想を常に抱く仲間に支えられ、彼は村政に熱い思いを投げかけた記録を残します。

歴史講座　　田中早春